

全日本シニア大会 混合ダブルスで初の全国制覇

「全国の試合は、一つ勝ち進むだけでも大変でした。まさか優勝できるとは思っていませんでしたので、とてもうれしかったです」と試合を振り返る田村さん。

同じバドミントンチームに所属する星千春さんと15年前から混合ダブルスのペアを結成。全日本大会出場を目標に、練習に励んできました。

田村さんは、「残業で練習開始時間が遅くなることもありましたが、昨年は週5日くらい練習に費やしていたと思います。深夜勤務で練習に参加できないときもあります。筋トレやランニングで基礎体力を鍛えたり、テレビで試合の研究をしたりしていました」と仕事以外では、バドミントン中心の生活を送ってきたと話します。

田村さんのバドミントンへの情熱を理解する家族やチームメイトに支えられながら、田村さんと星さんは切磋琢磨し、6年連続で全日本大会に出場。今大会では念願の頂点に上り詰めることができました。

「まぐれと言われたくないので、自分の体を鼓舞して練習を続けて



▲混合ダブルスでペアを組む星さんと田村さん(右)

いき、連覇を目指したいです」と今回の全日本大会について田村さんは、意気込みを語ってくれました。

いつまでも選手として 競技を続けていきたい

「中学・高校と続けてきたバドミントンですが、当時よりも技術は上達したように感じますし、年齢を重ねても仲間たちと集まって競技できるのが何よりも楽しいです。体を動かすことが好きなので、これからも体が言うことを聞くまでは続けていきたいですね」と笑顔を見せる田村さん。

「まだまだ若い人にも負けないうもりです」と田村さんは、今日も体育館でチームと一緒に練習し、汗を流します。



KIRARI

たむら たかもと
田村 隆紀さん(富岸町)

所属チーム『荒くれ羽球部』の星千春さん(伊達市)とともに、平成30年11月に愛知県で行われた『第35回全日本シニアバドミントン選手権大会』に出場し、45歳以上混合ダブルスの部で119ペアの頂点に立った田村隆紀さん。

今号では、仕事のかたわら、バドミントンの練習にも人一倍努力を続けてきた田村さんに、バドミントンにかける思いなどについて話を伺いました。

いつまでも選手として 活躍していきたい



昭和47年、滝川市生まれ。46歳。

滝川工業高等学校のバドミントン部で、3年続けてインターハイに出場。就職を機にバドミントン競技から離れるも、平成7年から、登別・室蘭・伊達のメンバーで構成するバドミントンチーム『荒くれ羽球部』に所属。パワーを生かしたスマッシュと緩急を織り交ぜながら試合を組み立てる。